

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	仙波 千浩	学校名	宇都宮市立宮の原中学校（栃木）
教科（科目）・領域	総合的な学習の時間	対象学年（人数）	3年6組（32名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020年8月～10月（全10時間扱い）		

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：暮らしを見つめよう！～SDGs for Utsunomiya～					
2. 実践する教科・領域： 総合的な学習の時間	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： ・衣類などを通じて自分たちの暮らしと発展途上国とのつながりを知り、学校に行けないことがもたらす問題について、SDGs と関連付けて理解する。（知識・理解） ・世界の相互依存の現状を知り、自分の生活と SDGs のつながりを考え、意見をのべることができる。（思考・判断・表現） ・授業で関心を持ったSDGsのゴールについて発信することを通し、地域に関わろうとする。（学びに向かう力）					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	自分たちの暮らしと発展途上国とのつながりを知り、学校に行けないことがもたらす問題について、SDGs と関連付けて理解している。			
	②思考力、判断力、表現力等	世界の相互依存の現状を知り、自分の生活と SDGs のつながりを考え、意見をのべることができる。			
	③学びに向かう力	授業を通じて関心を深めた SDGs ゴールのポスター作成、発信を通じて、地域に関わろうとしている。			
6. 単元設定の理由・単元の意義 （児童/生徒観、教材観、指導観）	<p>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</p> <p>本単元では、SDGs ゴール解決になぜ取り組まなければならないのかを学び、自分の暮らしと SDGs のつながりを発見させ、SDGs のゴールの背景にある諸問題をジブンゴトとして考えさせる。その問題は決して自分の暮らしとは程遠いものかもしれないが、困った現実と向き合っている人がいる中で今自分にできることは何なのか考えさせたい。そして、本校ではSDGs の認知度はまだまだ低いと考えたため、フォトレポートやポスターの作成を通じて、自分たちが持続可能な社会の創り手であることを意識させたいと思った。</p> <p>感染症予防の観点から、グループワーク等に制限があるが、学校行事等も中止になっている今、この活動を通して級友と協力することで視野を広げさせたい。また、この課題を考えることで社会に貢献できる人に成長してほしいと願っている。</p>				

【児童／生徒観】

本校3年生は年度当初、SDGsについて知っている生徒はほとんどいなかった。しかし、SDGsと社会のニュースなどのつながりについて伝えると興味を持ち、その重要性を他者に伝えたいという様子が見られるようになった。卒業学年で進路を意識し始めたこともあり、社会情勢にも興味を持つようになってきている。今後は授業を通して社会参画の意識も芽生えさせ、持続可能な社会の担い手としての自覚を持たせたい。

【教材観】

生徒たちは普段ものに溢れる豊かな生活をしていて、そこに疑問を感じることはあまりない。その一方、世界には様々な困難と向き合いながら生活している人もいる。SDGsとは、「誰一人取り残さない」17の目標である。今回は社会の諸問題について概念的に理解するだけではなく、子どもや学校など生徒にとって共感しやすい話題からSDGsを考えることで、その解決の必要性を切実に実感させたいと考えた。そこから私たちの身近な生活にも目を向けていき、私たちの生活の中でもSDGsのゴール達成のためにできることがあることを実感させたい。

本単元は、本校3学年の総合的な学習の時間の課題学習として取り組む。汎用性も意識し、どの先生でも取り組みやすい内容になるよう工夫した。全10時間の課題学習なので、多くの学校で総合的な学習の時間に取り組みやすい時数だと考えている。

【指導観】

本単元では、まずDVDや写真から様々な課題を知ることから始めたいと考えた。また、その課題について考え、共感したり、何か行動したいという気持ちを持たせることができるように指導したい。そして、単元の中でレポート作成やポスター作りを通して、自分の意見を他者に発信する力を身に付けさせたい。その中で、指導をする際には生徒の学力差や、生活経験の差もあることに留意し、読み物資料や写真などを用いて生徒たちが様々な情報を教室で得ることができるよう工夫する。

7. 単元計画（全10時間）

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。

時	ねらい	学習活動	資料など ※：JICAリソース活用はここに記載
1	<ul style="list-style-type: none"> SDGsについて知る。 自分たちにも社会のためにできることがあることを考え、社会参画への興味を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ユニクロ「服のチカラプロジェクト」への参加 DVDを見る。 	ユニクロ「服のチカラプロジェクト」DVD
2 3 本時	<ul style="list-style-type: none"> 衣類などを通じて自分たちの暮らしと発展途上国とのつながりを知り、学校に行けないことがもたらす問題について、SDGsと関連付けて理解し、解決法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真とメッセージカードを組み合わせる。 学校に行けないことがもたらす問題を付箋に書き、関連付ける。 水、教育、貧困に関するデータを見る 大切にしたいゴールをランキングする。 	JICA「どうなってるの？世界と日本」 JICA「photolibrary」 写真 データ

4	・SDGs17のゴールが生活のどんなことと結びついているかを考える。	・SDGs17のゴール実現に向けて社会ではどんなことがなされているのか調べる。	・本校ブックワゴン SDGs 関連資料 ・新聞記事
5	・自分の生活の中で見つけたSDGsについてレポートにまとめ、それについて思ったことを発信する。	・本時までに、町や学校の中でSDGsと関わると生徒が考えて撮った写真思うところの写真を撮っておく。 (写真でなく、新聞記事やネットニュースなどでも可とする。) ・写真について思ったことをレポートにまとめる。	生徒が撮った写真
6	・友人のレポートを鑑賞し、SDGsに関する新たな視点に気付く。	・友人のレポートを見て、コメントカードにコメントを記入する。	レポート コメントカード
7	・SDGsを宇都宮市民に発信するための準備を行う。	・自分の発信したいSDGsのゴールを1つ選ぶ。 ・興味のあるゴールをどのように発信するかを考える。 ・同じゴールを選んだ人同士で話し合い、考えを深める。	本校ブックワゴン SDGs 関連資料
8 9	・SDGsポスターを作ろう!	・前時に話し合ったことを元にポスター制作をする。	本校ブックワゴン SDGs 関連資料
10	・SDGsポスター鑑賞会	・友人のポスターを見て、コメントカードにコメントを記入する。 ・単元全体の活動を振り返りシートで振り返る。	ポスター コメントカード 振り返りシート

8. 本時の展開 (概略)

本時のねらい：衣類などを通じて自分たちの暮らしと発展途上国とのつながりを知り、世界の相互依存の現状についてSDGsと関連付けて理解し、自分が大切にしたいものは何か考える。

※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
1時間目 導入 (5分)	<前時に鑑賞したDVDの内容を振り返る> 「服のチカラプロジェクトのDVDで印象に残った場面はどの場面でしたか。」 「DVDを見て、どんなことを考えましたか。」 ・自分と同じ年代の子供でも全然違う生活をしている人たちがいると思った。 ・難民は大変だと思った。	友人の発表を興味を持って聞ける雰囲気づくりをする。	SDGs ロゴ (黒板に掲示)
展開1 (5分)	【テーマ①私たちの暮らしを振り返る】 <途上国と生活のつながりについて考える> (小グループ) 「私たちが今、着ている服はどこで作られているのでしょうか。」 ・体育着には”Made in Japan”と書かれてい		JICA「どうなってるの?世界と日本」 パワーポイント 世界地図



	<p>る。</p> <p>「実は” Made in Japan” と言われるのはこんな商品です。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知らなかった。 		
(5分)	<p>「みんなが持っている服はどうでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バングラデシュで作られている服があるんだ。 ・ ベトナムってどんなところなんだろう。 	<p>生徒にお気に入りの服を 1 着持参させる。</p>	
	<p>「では、私たちの服の多くはどんなところで作られているでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中国 ・ ベトナム ・ インド 	<p>ワークシートグラフの A, B, C の国を予想する。</p>	
(5分)	<p>「なぜたくさんさんの服が、ベトナムやバングラデシュで作られているのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安く作れるから。 <p>「なぜ安いのですか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 賃金が安いから。 <p>「これらの国はどのように呼ばれますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発展途上国 		
(20分)	<p>「他にどんなものが発展途上国で作られていると思いますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チョコレート？ ・ 石油？ <p>「クイズに取り組んでみましょう。」</p> <p><カカオ、タコ、石油など、生活に身近なものがどんなところで作られているか、ヒントをもとに産出国名を答える></p>	<p>ワークシートのクイズに取り組む。</p>	
	<p>【テーマ② SDGs × 子どもたち】</p> <p>「それでは、今出てきた国で暮らしている子供たちがどんな生活をしているか見てみましょう。」</p>	<p>生徒が共感的に理解できるよう、子供たちの写真を見せる。</p>	<p>JICA 「photo library」 ACE 「子どもたちに幸せを運ぶチョコレート」内 写真</p>



- ・水くみをしているところ
 - ・勉強をしているところ
 - ・ピクニックをしているところ
- 「今から彼らからのメッセージカードを配ります。写真とカードを合わせましょう。」
「写真と、どの SDGs のゴールが関わっているでしょう。」
- ・ 6 水の問題と関わっている。
 - ・ 4 教育の問題と関わっている。
 - ・ 1 貧困の問題と関わっている。
- 「今から水、教育、貧困に関する世界の状況のデータを見せます。世界地図で彼らが住んでいる場所を確認して、そのデータを見てみましょう。」
- (5分) 「データや写真から、感じたことをワークシートに書きましょう。」
- ・ あんなに高い丘の上まで水を運ぶのは大変そう。
 - ・ 教室がなくても一生懸命勉強している。
 - ・ 児童労働をしている子供たちは学校には行っていないのだろうか。

感想を書くことが苦手な生徒はワークシートの絵文字に○を付ける。

(5分)

2時間目
展開2

<学校に行けないということについて考える> (小グループ)

学校に行けないということが、子供たちの将来をも左右し、また社会の様々な問題と関連していることに気付かせる。アイデアが乏しい班には教師が作った付箋を一枚与え、視点を広げさせる。

(15分)

「学校に行けない、教育をきちんと受けられないと、他にどのような困ったことができそうですか？各自付箋に書いてみましょう。」
「書けたら付箋を模造紙に広げてみましょう。関連する付箋は矢印でつなげてみましょう。更に思いつくことがあれば新たに付箋に書いて貼りましょう。」

(10分)

「他の班が作った関連図も見てみましょう。」
「どんなことに気付きましたか。」

- ・ 健康面にまで影響を及ぼしてしまうなんて…。

メッセージカード (資料1)

SDGs アイコンカード

世界地図 (教室内掲示)

グラフデータ

付箋

模造紙

<p>(15分)</p> <p>まとめ (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の代まで影響してしまうなんて驚いた。 <p><SDGsの中で自分が大切にしたいことを選び、ランキングを作る></p> <p>「今、いろいろな問題点に気づいた人も多いと思います。こうした問題を解決するために、世界の合意のもとにSDGsというゴールがつくられました。」</p> <p>「では、あなたがSDGsの中で大切にしたいことは何ですか？ランキングにしてみました。」</p> <p>「なぜそのランキングにしましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが学校に行けないのはかわいそうだから教育が一番大切だと思った。 ・お金があれば解決することも多いから貧困問題の解決が大切だと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・宮の原パスポートにも感想を記録する。 	<p>理由も尋ねることで考えを深めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宮の原パスポート (国際理解教育用の振り返りシート。年間を通して使用)
<p>9. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣類などを通じて自分たちの暮らしと発展途上国とのつながりを知り、世界の相互依存の現状についてSDGsと関連付けて理解し、自分が大切にしたいものは何か考えることはできたか。 <p>(ワークシート記述)</p>			
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <p>本時では、充実した話し合いができるように小グループを編成し、話し合い活動を中心に進めていく。これにより、生徒同士で考えを深め、多くの異なる意見から自分の意見を深めることができると考えている。また、本時実施後は、図書館司書の先生にも協力していただき、SDGsに関する本を生徒たちの手に取りやすいところへ置いてもらう。最後に制作するポスターは近隣小学校や地域商店などに発信したいと考えている。</p>			
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <p>本授業を学年全体で取り組むことで、学年の先生方へも開発教育を広めていく。今回の研究授業を校内の先生にも周知し、先生方に自由に参観していただきたいと考えている。また、学習の様子や作成したものを廊下など多くの人の目に留まる場所に掲示する。さらに、学校HPでも取組を発信し、多くの人に開発教育の取組を広げていきたい。</p>			

【自己評価】

12. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが発展途上国の問題について関心を持ち、心を寄せながら考えられる題材選びに苦勞した。そこで、洋服やチョコレート（カカオ）など生徒たちの生活に身近なものを題材として扱うことにした。 ・生徒たちの話し合いを中心に授業を進められるような活動を多く取り入れた。どの活動も答えがあるものではなく、生徒たちが自由に考えることができたと考える。半面、グループ活動に特化してしまい、全体でのシェアリングの時間がなかった。いい意見がたくさん出ていたので、全体で共有できるとよかった。
13. 改善点	<p>[参観者の意見から]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展開1で水、識字率、貧困に関する資料を提示したが、もっと様々な資料があると考えを深めるのにつながったのではないか。 ・展開2で「学校に行けないとどんなことが起こるか」の発問に主語がなかった。自分が学校に行けないと困ることなのか、途上国の子どもたちが困ることなのかわからなかった。 ・全体を通して子どもたちから「不平等」という意見が多く出た。自分事としてとらえているようで、生徒たちの中で「自分が優位である」という意識が出てきてしまうのではないか。 ・様々なゴールに扱うことができていたが、そのせいで視点がバラバラになっていた。もっと絞るとよかったのではないか。
14. 成果が出た点	<p>[参観者の意見から]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展開1では様々な情報に触れ、生徒の視野を広げることができていた。 ・展開2の「学校へ行けないこと」について制作したものをお互いに見合う活動の中でよいと思ったものに印をつけさせるのが効果的だった。 ・「学校に行けないとどんなことが起こるか」というところは、生徒たちが自分が新型コロナウイルス感染症による休業期間のことを思い出しながら考えていた。途上国の生徒たちと視点は違うが、自分事として思いを寄せていたのではないか。
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>[子供たちの感想から]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを達成するといってもまずどの問題から解決していったらいいのか悩んでしまった。でも、考えることが大切だと思った。 ・貧困な生活をしている子供たちも笑顔で生活していてその強さがすごいと思った。 ・学校に行くことはSDGsのすべてのゴールにつながる大切なことだと思った。 ・1つの問題が親から子へとどんどんつながっていることに気づいた。 ・自分にできることは何か、難しいけど考えたいと思った。 ・ゴールが複雑にかかわっていて難しいけど、1つの課題を解決することが他の課題にもつながっていくと思った。 ・難しいかもしれないけど、自分が少し変わろうとすることでどんどん世界は変わっていくと思った。 ・世界の問題を解決するためには国同士で話し合っても無理だと思う。1人1人が行動しないといけないと思った。 ・SDGsをもっといろいろな人に知ってほしい。 ・SDGsは生活の中で意識できることが多いので、私にもできることがあると思った。

16. 授業者による 自由記述	<p>昨年度、教師海外研修に参加し、派遣されたネパールについて題材にした授業では生徒たちの変容が多く見られた。しかし、実際に海外に行くことはなくても、生徒たちに世界について考えさせることができるような授業が実践できないかと本研修に参加した。校内からは「SDGs は難しすぎる」という声も多くいただいたが、生徒にもわかりやすく実践するにはどうしたらいいか悩みながら授業作りをした。</p> <p>本授業は、生徒が他教科で学んだ知識を生かしながらかし合いができ、中学3年生に適した内容であったと考えている。生徒たちは SDGs に興味を持ち、「もっと知りたい。」という意欲を見せていた。新聞やテレビで見つけた SDGs についても教えてくれるようになった。このように興味を持つことが今後の行動決定につながっていくと考えている。また、そのような生徒の反応を通して、校内の先生方の意識が変わり、SDGs が難しい課題という印象から、「生徒が興味を持って取り組むことのできる課題」という印象に変わったという声もいただいた。「難しい」と決めつけるのではなく、どうしたら理解できるか考え、わかりやすく説明すること、そしてそこに教師の思いが伝われば理解することができ、社会貢献への強い意志につながると実感した。</p> <p>違う学年で実践する場合は、活動の数を減らし、生徒の思考が深められるような支援が必要だと感じた。今後の授業の中で提示する資料を増やすことで、SDGs についての考えが深まり、議論も活発になるのではないかと考える。</p>
--------------------	--

参考資料：

- Unicef 「Progress on household drinking water, sanitation and hygiene, 2000-2017」
- konoema 「成人の識字率」
- WFP 「ハンガーマップ」